

佳作

(三重県四日市市)

齋木 三規子

「おじいちゃんごめんなさい」

私が、酒蔵に嫁に来て、二十八年になります。

おじいちゃんごめんなさい。

この夏に何もかも白紙にします。

主人は四代目長男、がんばって家業を継ぎ、お酒を造ってきました。

褒めてやってください。

五代目一人息子は、三年前に、大阪の病院に勤めに行っちゃいました。

息子は、子供の頃から、僕は、酒造りが大嫌いもろみの匂いが嫌い、僕の家には、

クリスマスも、お正月もない。造り酒屋なんて大嫌いと言っていた事、覚えていますか。

その時、おじいちゃんが、おまえの好きな道に進みなさいと言ってくれましたね。

その言葉通り、息子は、羽をひろげ飛んでいってしまいました。

おじいちゃんに謝らなければならぬ事があります。

一代目、二代目、三代目のおじいちゃん達が明治、大正時代に建てた酒蔵の、

老朽化がひどく、修復不可能になりました。

思い切って、廃業することにしました。

私に酒造りを、教えてくれたおじいちゃんの生き生きとした姿、今でも思い出します。

おじいちゃんが最後に造ったお酒、今でも店の冷蔵庫の片隅に、少し残してありますよ。

おじいちゃんは、あの世で今も、お酒を、造っていると思います。

あなたの息子、嫁の私が行くまで、お酒を、造り続けていてください。

来年の四月が来ると、おじいちゃんの十三回忌ですね。

その時には、酒蔵の跡地に、アパートが建っていると思います。

おじいちゃん、ごめんなさい。

アパートの名前、おじいちゃん達が、お酒の名前に使っていた銘柄を、英語にして

グロリーク라운に、しちゃいました。

御先祖様は、何て言われるかしら。

私達夫婦は、孫の顔を見てから、おじいちゃんの所へ行きます。

それまで、おいしいお酒を造り続けながら、待っていてください。

四代目嫁より